

第2回 みどりの区民活動会議

ボランティア活動の継続性における 課題の共有

区職員としてこの10年間を振り返って



みどりを育むムーブメントの輪を広げるための施策の充実

つながるカレッジ みどり分野の開講
～多くの修了生が地域活動で活躍



花壇事業の統合
～区民協働花壇事業として一体的に展開



練馬みどりの人材バンク始動

～活動したい個人と
団体のマッチング
が加速



落ち葉掃きボランティア開始

～みどりのボランティア参加の新しい形



ボランティア活動は令和時代のフェーズに突入

つながるカレッジねりま みどり分野



公園等にある花壇や、憩いの森等の管理に必要な知識・技術を学ぶ講座。修了後は、地域活動団体への加入もしくは新規立ち上げを目指す。

★コミュニティ・ガーデナーコース
通常・フォローアップ講座
※定員 各25名

★ねりまの森維持管理コース
樹木・草地管理専攻
※定員 各専攻15名

区民協働花壇事業



公園や駅前広場などの区民に身近な花壇やプランターを、地域の方を中心に構成された団体が管理する事業。

★70団体・84か所
(R6年度比 5団体・4か所増)
★団体交流会開催

憩いの森等の区民管理支援事業(※)



憩いの森等の維持管理や、森の魅力を発信する自然観察会などのイベントを区民団体が行う事業。

★新規1か所開始
(けやき憩いの森) ➡ 全13か所
★団体交流会開催(1回)

練馬みどりの人材バンク(※)

あなたの力をみどりの現場に活かしましょう!

練馬

みどりの人材
バンク

みどりを守り育てる活動に参加したい個人と、活動の現場(団体)をつなげるための登録制度。

★個人登録者 320名
★登録団体 40団体
★メールマガジン 13回発行
★活動体験会 1回実施

落ち葉掃きボランティア(※)



民有の保護樹木・保護樹林地周辺の落ち葉掃きを、公募した区民ボランティアと協働で行う事業。事業の企画や当日の運営などを支える運営サポーターを育成・支援。

★実施場所:6か所(うち3か所で運営サポーターが参加)
★参加者数:延べ217名

ねりまの森子どもフェスタ



憩いの森等の区民管理団体が行う子ども向けのイベントを集約し、一体的に情報発信する事業。

★7か所の憩いの森等でイベントを計9回実施
★来場者数:延べ約500名
★11か所でクイズラリーを同時開催

ねりま みどりフェスタ



みどりや生きものなど、練馬の自然と直接ふれあい、様々な遊びや体験ができるイベント。R8.3.22初開催。みどりを守り育てる区民活動や区の実組などを総合的に紹介。

★憩いの森管理団体や造園協会等18団体出展
★来場者数:約8,000名

みどりの活動団体 登録制度



区内でみどりに関する活動をしている団体を一元管理し、物品貸与や情報の支援等を図る事業。

★登録団体数:98団体

区職員として感じた ボランティア活動の「これまで」と「これから」



活動への参加動機や参加方法も多様化している

項 目	これまで	これから
年 代	高齢者が中心	現役・ファミリー層の参加増
参加スタイル	団体への所属が前提	個人単位でのスポット参加の増
活動期間	長期継続型が主	単発・短時間型の増
情報収集	紹介・口コミ・紙媒体	SNS・Web中心
参加目的	社会・地域貢献	自己実現・交流・楽しさ重視

【参考資料】

- ・「令和7年度 団体のボランティア活動等に関する実態調査」（東京都生活文化局 令和8年3月）
- ・「都民等のボランティア活動等に関する実態調査」（東京都生活文化スポーツ局 平成29年3月、令和7年1月）

区職員として活動を支援する中で感じていること ①



① 担い手の高齢化

◆ 高齢者中心のメンバー構成

- ▮ 若い世代が加入しづらくなる

◆ 体力的な負担による離脱増

- ▮ 残ったメンバーの負担増が、新たな離脱を招く

◆ 情報化（情報発信）に対応できていない

- ▮ 情報が届かないので、新規メンバーも増えない
- ▮ 活動が内向きになり、団体内モチベーションが上がらない



② 情報発信が不十分

- ◆ 活動の成果や魅力が見えにくい
 - ▮ 団体モチベーションの低下も招く

- ◆ 地域に開かれた活動にならない
 - ▮ 地域との交流が生まれない

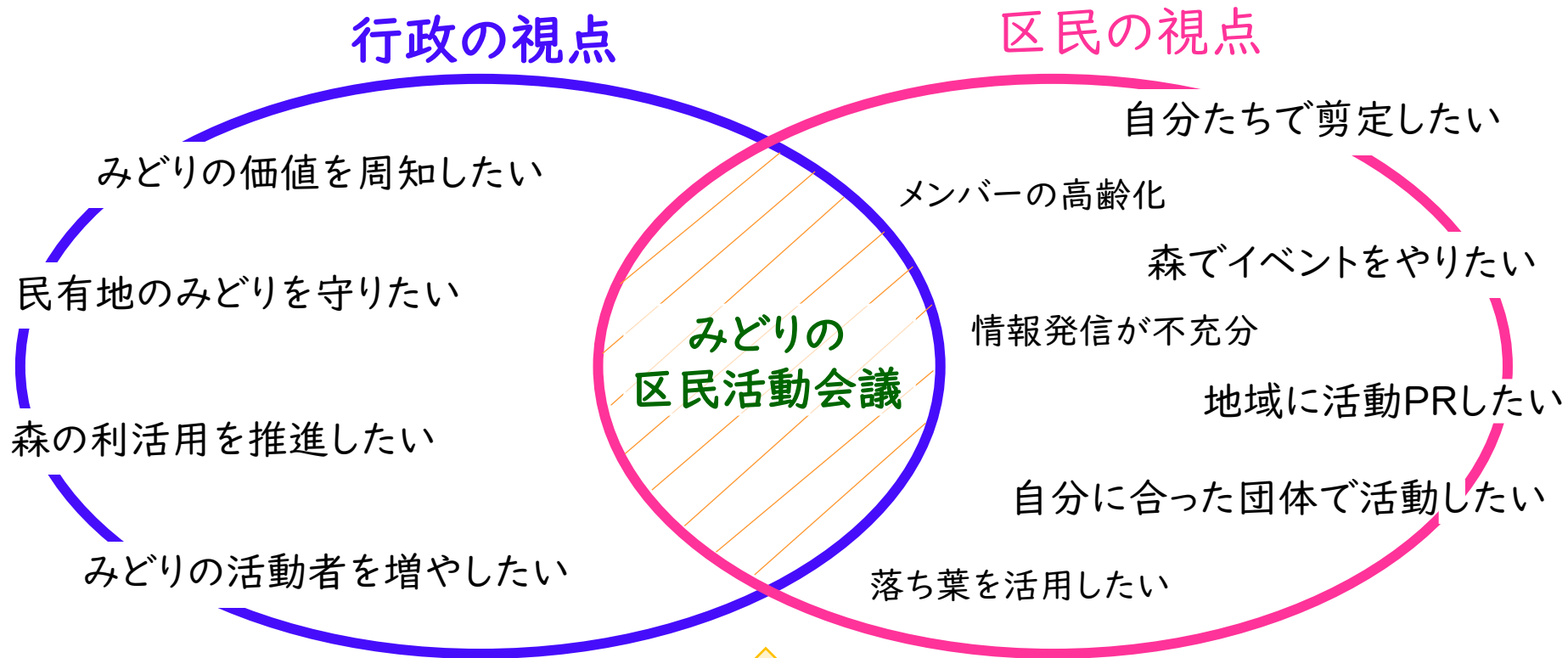
- ◆ 新たな参加者が増えない
 - ▮ 活動の衰退化につながる



③ 新規参加者のニーズとのミスマッチ

- ◆ 子育て・現役世代が参加できる土日の活動が少ない
 - ▮ 「月に1回でも土日の活動があったら、子どもと一緒に参加できるのに…」
- ◆ 体験や見学等の機会が少なく、加入のハードルが高い
 - ▮ 「団体内の雰囲気や年齢構成を知ってから加入したい」
- ◆ 団体内のフォローがなく馴染めない
 - ▮ 「加入したものの、活動ルールや団体内の決まりが分からない」

課題共有の意義



この共有が実効性のある課題解決につながる

ま と め



みどりを守り育てる活動をしている区民を増やすためには
多様な世代へのアプローチが必要

仮説

多様な世代が活動に参加している団体は、
新たな参加者を呼び込みやすい。
＝活動の継続性が高まる



ターゲット

多様な区民像の状況や気持ちを想像して
活動に参加してもらうためのアイデアを共に探りましょう！

